

エンテロウイルスの検出状況

エンテロウイルスは「夏かぜ」と言われるヘルパンギーナや手足口病、髄膜炎の病因です。今回は、ヘルパンギーナ、手足口病、髄膜炎からのエンテロウイルスの検出状況（埼玉県衛生研究所実施）について報告します。

4月1日から6月10日までに採取されたヘルパンギーナ16検体、手足口病9検体、髄膜炎10検体、計35検体からのエンテロウイルスの検出状況を下表に示しました。検出されたエンテロウイルスは、ヘルパンギーナ3検体及び手足口病1検体からコクサッキーウイルスA4型が4件、髄膜炎3検体からコクサッキーウイルスB3型が2件、エコーウイルス6型が1件で、5月31日以降に採取された検体から検出されました。エンテロウイルス以外のウイルスでは、アデノウイルス2型が2件、ヒトメタニューモウイルス、ライノウイルス、ヒトパルボウイルスB19、風しんウイルス（ワクチン株）、ムンプスウイルスが各1件検出されました。

表 4月1日～6月10までに採取された検体からのエンテロウイルス検出状況

定点医療機関	性別	年齢階級	発病年月日	採取年月日	検体	疾患名	ウイルス
A	男	5-9歳	5/24	5/31	便	髄膜炎	エコー6
B	男	1歳	6/5	6/6	咽頭拭い液	手足口病	コクサッキーA4
B	女	1歳	6/5	6/6	咽頭拭い液	ヘルパンギーナ	コクサッキーA4
C	男	1歳未満	6/7	6/7	髄液	髄膜炎	コクサッキーB3
D	男	1歳	6/8	6/8	咽頭拭い液	ヘルパンギーナ	コクサッキーA4
D	男	1歳未満	6/6	6/8	咽頭拭い液	ヘルパンギーナ	コクサッキーA4
C	男	1歳未満	6/7	6/10	咽頭拭い液	髄膜炎	コクサッキーB3

コクサッキーウイルスA4型は、2015年は検出がありませんでしたが、2014年はヘルパンギーナから最も多く検出された型でした。また、患者サーベイランスにおいて、今年はヘルパンギーナが2014年と同様の大きな流行が観察されています（今週の注目される定点把握対象疾患の推移の図1参照）。

6月11日以降に採取された検体はヘルパンギーナ18検体、手足口病7検体です。検査結果は適宜報告する予定です。流行状況の詳細な解析のため、病原体定点医療機関の先生方には、今後とも検体採取に御協力をお願いします。